



紫雲児の心

4月7日(火)、レンギョウや桜の花が咲きほこる中、新任式・始業式を行い、令和8年度が始まりました。午後から行われた入学式では、54名の新入生が入学し、式辞では以下のような話をしました。

入学式の式辞から(抜粋)

校長 本保 逸彦

紫雲寺中学校での3年間をスタートさせる皆さんに心がけてほしいことを3つお話します。

1つ目は、「視野を広くもつ」ということです。小学校の卒業とは異なり、中学校を卒業するときには、次の進路が自動的に決まることはありません。時には、初めて出会う人たちと交流し、異なる習慣や文化の中に入っていくことも必要になってきます。そのため、中学校の3年間では、これまで以上に視野を広げ、日本や世界の現状を知り、その中で活躍できる自分づくりに励むことが大切になります。中学校でも、ICT機器の活用や総合的な学習の時間、進路学習などを通じて、みなさんの視野を広げるためのたくさんの機会と取組を実施していきます。知らないことを知る喜びを感じて、社会とつながる学びを深めていきましょう。

2つ目は、「人は失敗から学び成長する」ということです。新しいことに挑戦すると上手くいかないこともあります。しかし、失敗した事実を悔いてばかりいても成長はありません。失敗した理由を考え、次はどうすれば成功するのかと考え、再度挑戦することが大切です。たとえ成功しなかったとしても、そこに向けて頑張った道のりが成長させてくれます。何も行動を起こさなければ失敗はありません。でも、そこに成長はありません。「自分の可能性」を信じ、決してあきらめずに挑戦し続けていきましょう。

3つ目は、「心豊かな人になろう」ということです。「心豊か」とは、思いやりと感謝の心を持ち、自分自身の思考と感情をコントロールしながら仲間と協働できる状態のことです。それを頭の中だけで思うだけではなく実行に移すことができる人になってください。これは、中学校の間だけの目標ではなく、社会で通用する人材として育つために必要です。皆さんが社会の担い手として心身ともにたくましく、自ら学び、自ら考え、自ら実行する心豊かな人に育つよう、先生たちは一人一人の成長を全力でサポートします。

近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。学習面だけでなく、心のケアや安全面、地域とのつながりなど、学校だけでは対応しきれない課題も増えています。そうした課題に対して保護者・地域と学校が手を取り合い、共に解決していくことが重要です。保護者・地域の皆さまの経験や知恵、そして温かいまなざしが、子どもたちの未来をより豊かにしてくれると信じています。

最後に、今年度も子どもたちが安心して学び、『笑顔があふれ、明日も来たくなる紫雲寺中学校』を目指し、教職員一同、全力で取り組んでまいります。今年度も、保護者・地域の皆様のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。